



赤ちゃん相談、ママの笑顔が何よりの安心



公園では親子の交流が自然と生まれる



公園の水辺も子どもらの最高の遊び場

## 数字

が語る、町の子育て力

### 出生数



R3年度

74

R6年度

39

### 解説

年々減少する中でも新しい命が誕生。一人一人の成長を町全体で温かく見守ります。

### 「赤ちゃん相談」件数



R3年度

181

R6年度

353

### 解説

相談件数が増加。一人で悩まず、気軽に頼れる方が増えています。

### 「子育て支援センター」利用者数



R3年度

2,438

R6年度

2,374

### 解説

子どもの数が減少しても、利用者は安定。気軽に集えて人気です。

## Interview



窪川地域子育て支援センター

所長 榎本 多美子 さん

### 「とにかく親子に寄り添う。その中でお母さん自身が答えを見つける場所」

ここがお母さんにとって「実家」のような場所になればと思って開設しています。親戚のお姉ちゃんやおばちゃんがいるような…そんな温かい場所になればと思っています。

私も、娘と孫が帰ってきたような感覚で「おかえり」って皆さんを迎えるようにしています。とにかく一番大切にしていることは、お母さんと子どもに寄り添うことで、

その中でお母さん自身が何か答えを見つけ出していく。そんな場所でもあります。

ここでお母さん同士がつながり、交流する中で少しでも気持ちをリフレッシュしていただけたらいいですね。

まだ利用したことがない方も、ちょっとのぞきに來ただけでも大歓迎です。3名のスタッフが、いつも笑顔で待っています。

## 特集

### この町で「一人じゃない」子育て——

## 自然

## と

## 人



### が、子育ての味方になる町。

新しい命を迎え、喜びいっぱいのご家族、子育てに奮闘中のご家族、そして遠く離れた孫の成長を思うご家族。皆さんそれぞれ、子育てに対する想いや悩みを抱えているのではないのでしょうか。

この町に小児科の専門医がいる病院は1か所しかなく、都会とは違う四万十町での子育てに、漠然とした不安を感じている方も少なくないでしょう。一方で、都会にはない豊かさが、この町にはあります。自然が最高の遊び場となり、温かい人々のつながりや町の支援策が子育て世代の味方となって、不安を和らげています。今回はこの町の「一人じゃない」子育ての秘密に迫ってみましょう。



### 子育て世代が抱く、リアルな不安

「夜中に発熱したら…」「病院まで遠い…」

この町での子育てを考えたとき、誰もが抱くのが「もしもの時」の不安。実際に子育て中の皆さんに取材したところ、「医療体制」に対する不安の声が最も多く聞かれました。

また、結婚や出産を機に四万十町での生活を始めた方からは、実家を離れることや、知り合いがいらないという不安から、子育てに対しても「誰に相談すれば？」「最初は心細かった」といった声が聞かれました。

子育て世代が抱える不安は、単にこの町が中山間地域だからという物理的な孤立への不安だけではなく、精神的な孤独感への不安を抱えている方も少なくないようです。

### 町の豊かさと支援が不安を和らげる

町では、子育て世代の皆さんに不安や孤独を感じさせないよう、さまざまな支援策を講じています。例えば、町内に3か所ある「子育て支援センター」では、育児相談だけでなく、保護者の皆さんが気軽に集い、語り合える場として温かい交流が生まれています。

「もしもの時」には、スマホ一つで直接、産婦人科医や小児科医に相談できるオンライン相談も、昨年4月に県内で初めて導入されました。また町外での妊婦健診の交通費助成など、誰もが安心して、妊娠・出産・子育てできる環境を目指し、町全体で取り組んでいます。

このような支援策に加え、町の豊かな自然や地域の温かい人間性がまた、子育て世代の不安を和らげているのも事実です。